


フレッシュイレブン
よしき
いきいきとたのしく



<第41号>
令和6年3月25日
発行責任者
吉木校区コミュニティ
連合協議会
会長 秀島義視



さらなる高みを目指して
副会長 有川 高一郎

新型コロナウイルス感
染症の5類移行に伴い、
漸くコロナ禍前の日常が
戻りつつあります。
5月の定期総会から新
たな期待感の中で「明る
く豊かな、活力のある町
を築く」という基本方針
に沿って、私たちは各種
の事業活動を推進しまし
た。
①安全・安心な地域にし
よう
②吉木校区の快適な環

境を守ろう
③健やかに暮らせる地域
にしよう
④校区内の一体感を醸成
しようのスローガンを掲
げ、各部会が一丸となっ
て社会貢献に努めたとこ
ろです。
安全・安心部会による
防犯パトロールや防災訓
練協力活動等により、子
ども達の安全確保が十分
できている。
環境部会による乳垂川

を守り育てる事業や校区
美化活動により、自然環
境の保全意識の高揚が図
られている。
健康・福祉部会による
健康づくり教室の開催に
より、高齢化が進む中、
住民の健康管理の維持・
向上に役立っている。
コミュニケーション部
会によるふれあい事業に
より、住民相互交流の機
会が増えている。
以上目標通りに本年度
の活動を終えようとして
いますが、2年間にわたっ
て各種団体と意見交換を
重ねた「校区別懇談会の
まとめ」では、交流やつ
ながりが年々希薄になっ
てきているという点が、
共通の課題として取り上
げられました。
「みんな仲良く元気に



みんなで問題点を議論

楽しく暮らせる校区」が
それぞれの団体が目指す
姿です。そのためには、
校区内の自治会同士の交
流を活発化させ、さら
には他校区における先進的
な取り組みも積極的に吸
収するなど、組織改革と
機能化、意識の更新が必
要と考えます。
次年度もご支援よろし
くお願い申し上げます。

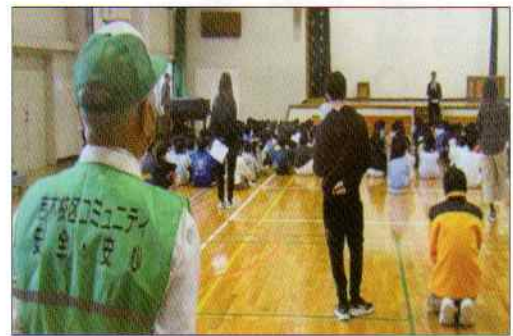
隣の芝の青さに触れる

事務局長 宗岡 信之

2月8日、須恵町第3小学校区コミュニティの「ふれあいレインボー」における実践状況の視察研修に出席。これには、他校区の役員と町の担当者総勢25名が参加しました。コミュニティの特色として

- ・ 役場の職員が専属で事務局を運営している
 - ・ 教育委員会主導による団体であることから「学校・地域の融合」による公民館事業や学校支援が主要な活動
 - ・ 元PTA役員や小中学校の教諭もメンバーとして活躍している
- などの説明がありました。

令和2年度以降、学校支援を主体としたスクールコミュニティから地域の活性化に繋がる暮らしのコミュニティへの変革を進めており、社会情勢や時代の流れに合わせたコミュニティを創造することの重要性を痛感しました。



安全・安心部会長 梶田 剛

防災の輪を広げる

中、担任の先生方の指示による机下への避難が冷静沈着に実行されました。避難解除後には、校長先生から「能登半島地震」「羽田空港の航空機衝突事故」を例に、災害時の心構えや事前訓練の大切さについてのお話がありました。

昨年11月の火災避難訓練にも立ち会いましたが、どちらの訓練も整然と進められ、防災教育の成果が十分に発揮されていると思います。

1月19日に吉木小学校で、児童達には「無予告」の地震避難訓練が行われました。当日は雨天のため、教室内に限定して訓練を実施。
ぐらつと揺れたら、まずは丈夫な机などの下にもぐって落下物から身を守る事が大切です。非常ベルが校舎内に鳴り響

災害はいつどこで発生するか予測ができません。当部会としても年初めの事案を教訓に、地域及び行政と連携を密にしなから、防災活動の充実・向上に努めて参ります。

自然環境を守る

環境部会長

筒井 信秋



乳垂川一斉清掃

春と秋に実施している
汐入川（正式名称）の清
掃には、町長も参加され
るなど、地域の年中行事
としてすっかり定着しま
した。10月29日の美化活
動では、上高倉区内から
吉木区の高見橋までの間
のごみや流木の片付けな

ど、100名の皆さんが携わり、川がとてもきれいになりました。ファミリーでの参加も多く大変嬉しく思います。

吉木小ビオトープ清掃

11月27日に吉木小と共に、繁茂した水草を除去しました。この清掃作業は年3回行っています。

吉木区の水路には、シジミ・ドブガイ・カワニナ・タニシの仲間の貝類が棲息しています。更に、ドブガイはタナゴの産卵場所、カワニナはホタル



の餌、タニシは稲を食害するなど、それぞれ別の生物との関係も持っています。子どもたちが自然の大切さを実感し、楽しく学べたら幸いです。

視察研修

環境に対する意識の涵養を図るため、1月13日に次の2箇所で視察研修を行いました。

北九州市エコタウンセンターでは、環境政策を先進的に取り組んでいる北九州市のリサイクル事業と、環境に配慮した次世代エネルギーである風力発電・太陽光発電等について説明を受け、実際に風力発電の施設も見学しました。

響灘ビオトープでは、元々産業廃棄物処理場であった場所をビオトープとして整備し、維持管理している苦労や努力に触れました。

今回は、変わってはいけない自然環境の保護と、変わるべきものとしての次世代エネルギーの取り組みという2つの面「不易と流行」を学ぶことができました。



チーム「脳卒中」が講演

健康・福祉部会長

御領園 正

1月27日に中央公民館で開催した「健康づくり教室」には、97名もの参加がありました。

福岡新水巻病院脳血管内治療科部長の角本孝介医師ほか理学療法士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーの方々が脳卒中の予防と発症時の対処、機能回復の実例、減塩の必要性そして相談窓口などについて、2時間にわたって分かりやすく説明されました。

「脳卒中」とは、脳梗塞や脳出血・くも膜下出血など、突然発症する脳の血管の病気であり、発

症後 4時間以内の専門的治療によって命を救い、症状を軽くすることが可能であると強調。

予防には、高血圧、糖尿病、喫煙、多量飲酒、不整脈等の管理が大切とのこと。

座っている時間が長いほど、脳梗塞のリスクが高まるので、血管のばしなどに関する運動の実技指導も行われました。



みんなでプレーを楽しむ

コミュニケーション

部会長 和田 敏子

地域間、世代間の交流を深めることを目的として、11月18日にいこいの里すぱーく岡垣で、「第14回ふれあいグラウンドゴルフ大会」を開催しました。

例年、吉木小学校の快適な芝グラウンドを使用していますが、今回は雨天のためやむを得ず屋内多目的施設に会場を変更することになりました。それでも、当日は子どもさんや応援の見学者を含め、48名が各自治会から集い、8チームに分かれて、好プレーを繰り広げました。会場の広さの関係で、全体的にゴールポストま

での距離が短かったことから、ホールインワンが続出し歓声があちらこちらから聞かれるなど、大会は大いに盛り上がりました。

部会では「校区の一体感の醸成」を目指して、今後もいろいろなイベントを展開していきます。皆さんの参加をお待ちしています。

